

# ビンナガ 南太平洋

Albacore, *Thunnus alalunga*



## 管理・関係機関

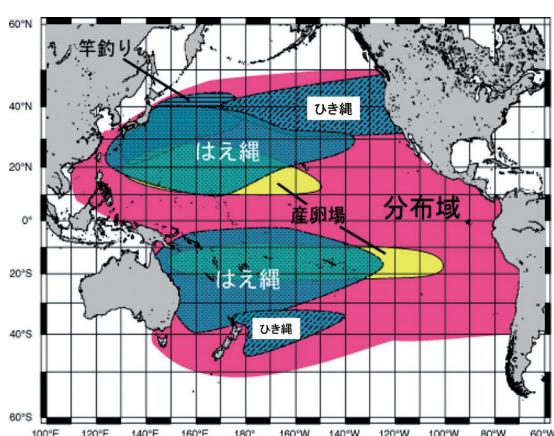
中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC)  
太平洋共同体事務局 (SPC)

## 最近の動き

本種の最近の資源評価は 2015 年に SPC の専門家グループにより行われ、現在の漁獲は過剰漁獲の状態ではなく、資源も乱獲状態ではないとされた。2015 年 8 月の WCPFC 科学委員会は、この結果等を踏まえ、生物学的な限界管理基準値を下回ることを回避し、経済的に実現可能な漁獲率を持続するために、はえ縄の努力量と漁獲量を減少することを勧告した。

## 生物学的特性

- 体長・体重：最大約 120 cm、約 30 kg
- 寿命：12 歳以上
- 成熟開始年齢：6 歳
- 産卵期・産卵場：10 ～ 2 月（南半球の春・夏季）、中・西部熱帯～亜熱帯海域
- 索餌場：南緯 30 ～ 45 度
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：まぐろ・かじき類、さめ類、海産哺乳類



太平洋におけるビンナガの分布域と主な漁場  
南北のビンナガは赤道で区分される。

## 利用・用途

缶詰原料など

## 漁業の特徴

主な漁業は、遠洋漁業国（日本、中国、台湾、韓国）や島嶼国（フィジー、サモア、仏領ポリネシア）のはえ縄、ニュージーランド、米国のひき縄で、竿釣りの漁獲はわずかである。近年は中国以外の遠洋漁業国のはえ縄漁獲が減少し、島嶼国のはえ縄漁獲が増加しつつある。はえ縄以外では、ニュージーランドのひき縄の漁獲が最も多い。

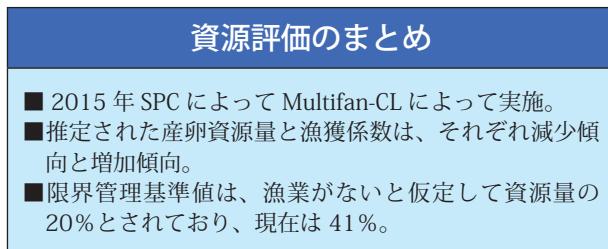
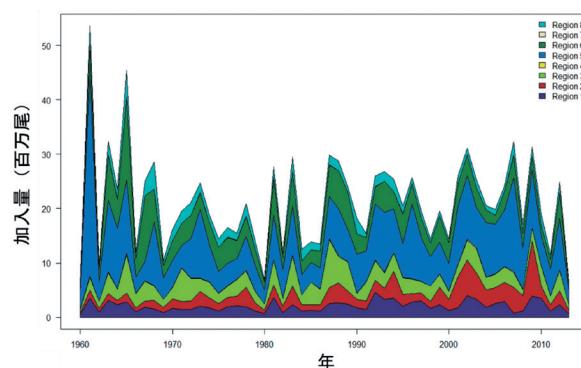
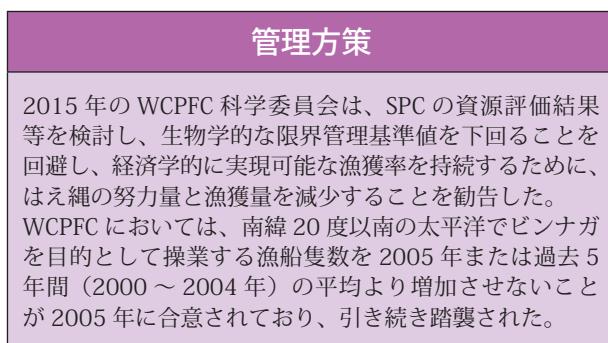
## 漁獲の動向

1950 年代初めから漁獲が始まり、1960 年代までの漁業国は日本、韓国、台湾であった。年間の総漁獲量は 1960 年から現在まで約 2.2 万～8.9 万トンの範囲を増減している。2014 年の漁獲量は 8.2 万トンであった。これまで最大であった台湾の漁獲量が減少する一方、中国の漁獲量は 2008 年から急増し、2014 年には 2.6 万トンで、国別で最大の漁獲量となった。また、近年は島嶼国のが漁獲量も急増している。

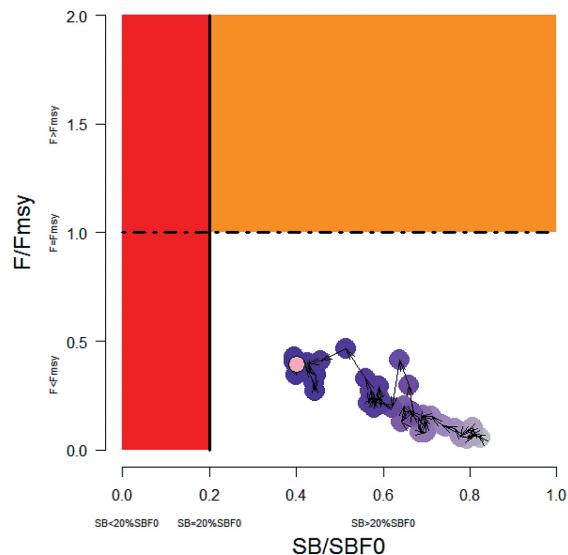
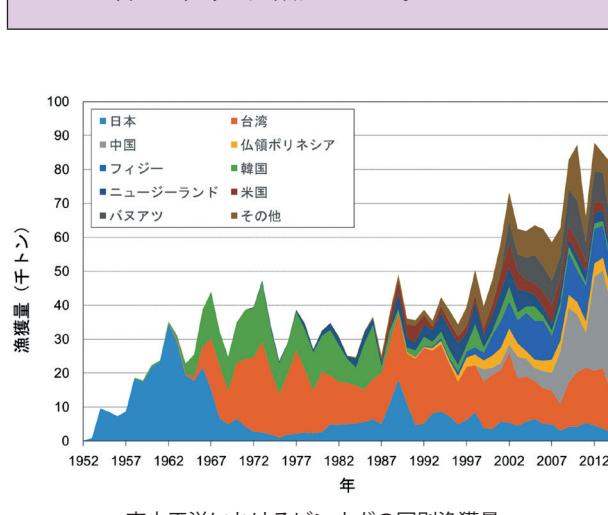
## 資源状態

2015 年 WCPFC 科学委員会において SPC は、資源の現状と管理勧告を以下の通りに報告した。

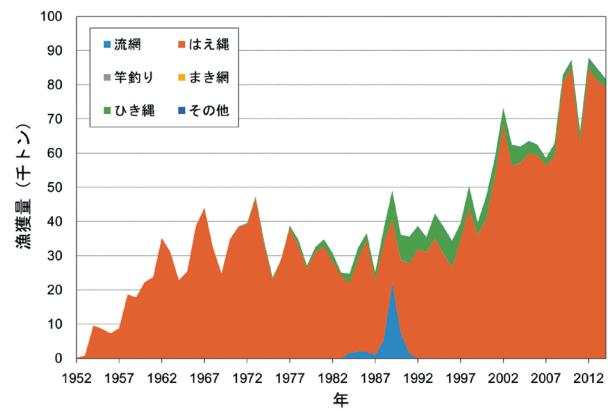
1. 南太平洋ビンナガ親魚資源量は MSY 及び限界管理基準値を超えておらず、乱獲状態には陥っていないと結論づけられた。
2. 努力量の更なる増加は長期にわたって漁獲量は増えないことに加えて、漁獲効率の減少をもたらす可能性があることを科学委員会では留意した。
3. 南太平洋ビンナガ資源の減少は、島嶼国のはえ縄漁業の経済学的状況を衰退させる重要な要素である。また、魚価の低迷は遠洋はえ縄漁業にも影響がある。
4. 亜熱帯域のはえ縄漁業の漁獲量と努力量の増加が南緯 10 ～ 30 度の特にはえ縄による成魚の漁獲効率を下げている可能性があることに留意する。
5. 現在の南太平洋ビンナガ資源は過剰漁獲でもなく、乱獲状態にも陥っていないが、漁業が経済的に存続できる漁獲効率を維持する資源量とするために、SC10 同様に引き続きはえ縄漁業による死亡率と漁獲量を減少することを勧告する。



南太平洋におけるピンナガの産卵資源量の推定値

南太平洋のピンナガに関する  $F/F_{MSY}$  と  $SB/SB_{F0}$ 

南太平洋におけるピンナガの国別漁獲量



南太平洋におけるピンナガの漁法別漁獲量

ピンナガ(南太平洋)の資源の現況(要約表)	
資源水準	高位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	6.6 万～8.8 万トン 平均：8.2 万トン (2010～2014 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	2,400～5,400 トン 平均：4,056 トン (2010～2014 年)
最新の資源評価年	2015 年
次回の資源評価年	2018 年